

# いわき民報

所 6 3  
行 町 民 報 社  
平 いわき 民 報  
社長 野沢武藏  
電話 4161番  
◎ いわき民報社 1960



## 午後だけ+レースを実施 平競輪も七月から自粛

### 純益、年間一割減を予想

五日東京九段都市会館で全国競輪施行者協議会が開かれ全日本の競輪施行者三百八十八人が集まつて、競輪の自粛について協議した結果、**① 競輪実施は午後限り四時間とする**現行の一日至十二レースを行つて来たが、これが十レースの四時間短縮に縮減することを申し合せ、七月一日から施行することを決議した。同日平市からは金事業課長徳井が出席、平市も同様に自粛競輪に踏み切ることになったが、この自粛による平市競輪の年間競金は一部減收(約四百万円)が見越されている。

平市では正午発走で五時までの間に競輪選手の退職慰労金と災害見舞金を選手会に助成することに月平均五千三百万円の売り上げが見込まれる。

金を差し引いても平市の助成負担は年間六十万円増となる。結果

局自粛競輪によつて三十五年度純益の一般会計繰り入れ金四千七百万円に五百円の減が見込まれる。

入減となる額様。

当初予算に計上された競輪事業度の繰り入れ約五百円の收

入減となる額様。

局自粛競輪によつて三十五年度

純益の一般会計繰り入れ金四千七百万円に五百円の收

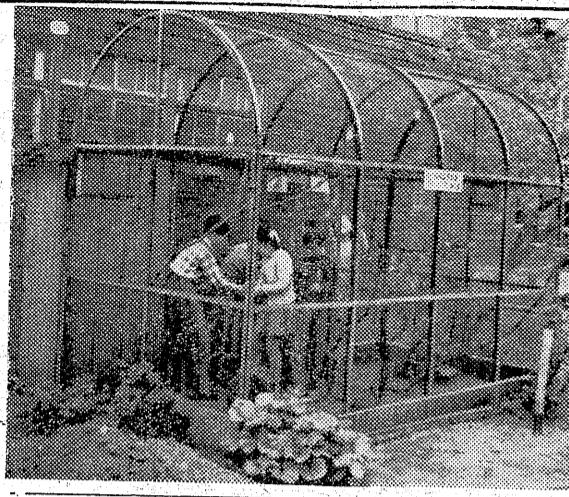
入減となる額様。

# 小鳥はボクらの友達

## 平市 小学校で五百羽飼育

きょう十日はベード・デー。平市内一小学校では原草達の情報教育、理科教材のために各校庭内に小鳥小屋を設けて飼育しているが、全校の飼育数は十数種やく五百羽にのぼっている。

○・平一小の中庭であつた十三の巣箱をねぐ回してもらつてアリカリするのである。小鳥の家は高三層で、幅三寸七分、高さ四尺、幅三寸七分といふ。長い小鳥を賣うことができず、文鳥などは別な箱で飼育し、これは昭和二十九年度で、小鳥は木村教諭の指揮で園芸部小鳥係の児童十人が飼育に當たり、小鳥飼育の予算は五千円。エサ代だけで糖一杯だそうだ。足りない時は他の部の予算を賄つて寄贈して貰つたもの。



卒業生が工費やく三万円を投じて、農業記念として寄贈して貰つたもの。

○・平一小の中庭であつた十三の巣箱をねぐ回してもらつてアリカリするのである。小鳥の家は高三層で、幅三寸七分、高さ四尺、幅三寸七分といふ。長い小鳥を賣うことができず、文鳥などは別な箱で飼育し、これは昭和二十九年度で、小鳥は木村教諭の指揮で園芸部小鳥係の児童十人が飼育に當たり、小鳥飼育の予算は五千円。エサ代だけで糖一杯だそうだ。足りない時は他の部の予算を賄つて寄贈して貰つたもの。

○・小鳥を飼育するようになって

## 近代婦人らしく

### エプロングループ、70人で発足

四倉町第九区(仲町)主婦たちのエプロングループは八日午後七時半石井政勇さん方で発会した。集

そろい、一人の運動者もなかつた。柳井区長や石井公民館長の指導で約二時間話合し、「家庭婦人として新しい時代をさわしい心機えで、明るい平和家庭をつくるあげ、婦人の翻騰ばかりの問題解決のため裏見の教養と訓練を進めること」という、かく趣旨を決めた。そして「時間を使ひ」「お互ひに迷惑をかけない」「皆んなで手をつなぎ合う」ことを申し合わせた。役員はつきの通り

決まった。

△会長 佐藤雪枝▽副会長 柳

井川子子、飛田キヨマ会計書記

石井英子▽監事 新谷トシ子、緒

吉ヨシ子▽班長 鈴木木

子、吉田キヨ子、小澤妙子、緒

方子サ、末佐美テル子

四倉町観光 四倉町観光

協会で給会 協会総会は

十六日午後 時四倉町公民館、開

き、三十五年度事業計画をたてる

船(江名瀬) 定置網船 集

延繩

△小サバ 三千五百キロ 二〇キロタ

イ五十キロ 四五五キロカワハギ

五十キロ 五一四五キロスズキ

十キロ一五六キロカレイ百キロ

一八〇キロアワビ 四千五百キロ

三十二キロエビ 五百五キロ

一〇一キロソイ 百五十キロ

一〇一キロソイ百五キロ

一〇一キロカジキ四百キロ

一三一キロメカジキ四百キロ

一七八キロカツオ十九本

一七九キロマコガレイ二百キロ

一七九キロカツオ一百キロ



